

和書  
二頁

二郡志

上

內務省圖書  
 第一九六九號  
 和書部地理類  
 函  
 共三冊

		二	和
		九	書
		二	門
		九	
		三	
		六	
		三	
三	三	三	類
冊	架	函	號

30  
 內閣文庫  
 和書部  
 二九二九三  
 三冊  
 一三五  
 函架

內閣文庫	
番號	和 29193
冊數	3 ( 1 )
函號	175 30

地



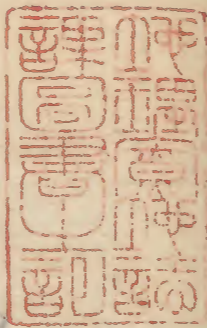
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





和賀郡 鬼柳村志上



下鬼柳村

南ハ仙臺領相持村ハ和賀川張東ハ上河切西ハ上

鬼柳村

此所ニ南江領と仙臺領との境深東改新所ナリ南江領版  
町ノ之ニ仙臺領ハ相持町ノ之ナリ此所ニ和賀川張東ハ上河切西ハ上

天正十八年乃秋ナリハて境と云々

其子細ト云正十八年八月官自秀吉公奥羽征伐原村ト云為  
河名氏之好中納言秀次ハ中河ノ一ニ河先子河野洋兵助  
長吉 長吉 長吉 長吉 長吉 長吉 長吉 長吉 長吉 長吉  
郷村を改メ云々 小己ノ嶺河郡ノ打入藤原ト和賀ノ境ト

何くそと尋らざると之も立新此れとも上方此大軍上聖と  
皆山林へ迹隠れを人も居合れ力なく今此相を頼飯町乃迎  
せく下向しとふ交々しく下の方より又南へ藤原和賀此境に  
存するは波若りしと云ふ和賀藤原の母を痛本として云ふ事  
通る可しと遠乃此南此方と云ふ事一彈正及信守らる今立新  
一立新の境に立るも及道に此立新の境に立ると此南此  
傍示此今の境目と立る事と云ふ事此所界と定海と云ふ事  
其翌年和賀祥也の南此此の伴行り也同年九月政宗も  
是頃の和領下と云ふ事西大崎へ取替の時此双方より此  
を境と相定らる事と云ふ事此の古来の相定村と和賀郡と  
鬼柳伝賀守也子法三郎と云ふ事相定法三郎と云ふ事



又相去乃西へ着西壇ある者西より鬼柳を攻め付着西乃  
大於付死し墳を築りて今も和賀乃着西壇と傳ふ是共  
也と云ふ事

頼飯町の西裏より大に此親多しと云ふ事和賀三十三番乃補陀所  
三十一番目なり同共西北の方岩の山崎と云ふ事此所の社の名  
秀明院 山号 養久山 志云云 此庵の親善堂此側と有  
八幡社 頼飯町の西乃方には所満と田中とあり別當  
ハ志云云 依樂守年依二十石 和賀八ヶ所の内社の西並に古  
寺場あり 何れ頃より此寺と云ふ事  
和賀川 苗村と云ふ川へ流入其向ハ尾原尻村より此川  
上水原ハ和賀沢内ノ奥河和賀沢内ノ奥河和賀沢内ノ奥河和賀沢内ノ奥河

深山乃南北林下より出づる云々乃帯よる八重石川流出東  
乃谷より葛丸川出るはより三ッ勝と名づくとも

上鬼柳村

南ハ仙臺依六原村ハ和智川限東ハ下鬼柳村西ハ岩崎村

河系田記方 和智二十三番補陀列二十三番目

東宮記方 河系田より東之和智札所二十三番目

鬼柳楢 榊 南の羽場の上より夫乃河の成り鬼柳

正覚寺と云ふ一云は其墓と城乃東の下より

正覚寺 山号 傳法山上古ハ天台宗と云是覚大師の墓基

力地と云ふ是覚大師乃伊直名傳法山ニ字ハ欽進路と云

おぼし一云去寛文年中南寺考上り時焼失りて今ハ曹

洞系と云ふ

當時曹洞乃開山中冊祥師ハ越後玉岩社邪村上靈樹山耕雲寺

并四世より法以耕雲三世南英和為一嗣耕雲開山ハ梅山開本

和為耕雲二世傳雲能勝和為俗姓ハ河別楠正成并三子

此姓を法と開并 和為能勝と云ふ也

當寺二世ハ秋鷲宗俊和為才三子ハ花庵文菊和為

尚与宗基乃時代傳るは其と云は能くハ文明の宗子ある其

故ハ中冊和為此迂化ハ文明元年 月廿二日と云ふ

當寺十世徳為智祥和為再具佛ハ

山門 享保二丁五年新ニ建立階上ニ日輪後光文殊

菩薩長二人并十六羅漢乃像長各一人三寸併ハ系師言田



弥陀如来立像一天之寸 是竟大原山作

卷堂瓦葺葺屋 法橋言海作 烏羽沙摩明王 淨堂作 同伍

白山権助 日伍 葦駄天像 同伍

拓寶二帝大権修理葺葺 言田友安伍

達磨大師像 日伍

佛具

溜陽燈籠 天蓋 世少一宗之佛佛具

寺有末寺

永明寺 杉原山 同部三子お 深志寺 和堂山 玉波尾村

松平寺 雜額山 同部末村

福元寺 仙臺山 加美郡官治村 石母田大胎牌所

松傳庵 仙臺山下荒所西側仙臺に寺傍稱司之番瓦向背

松傳庵 兼津城下に有江村ハ伊達政宗伊先祖より檀越也

志々ふ天正十九年改宗今此仙臺ハ新整の時此寺に

遷之基を移し其子并を寺に之よりとてやと

松傳庵と号し故に兼津乃松傳庵ハ仙臺の末と

うと

龍洞院 仙臺山末田部

笈<sup>下</sup>池村 私に云池の字院の寺に月い本々々成心成行比子細也

南に仙臺山六系村之界い小々岩崎嶺山止村之接れ末ハ

上鬼柳村西ハ約ヶヶ付横嶽の山とつて

七折指 岩崎村の跡つて其四領の南とつて其方之江町

方一長六辛丑年和賀主馬岩崎の城之楯籠之南に討陣するに時、前信長大守是代法人の為之河馬が出ると此所之世を築きしに河馬陳つるに河馬陳乃攻む

岩崎村

南及河村間之原野を隔り北に和賀川限

西に保羅村東に上鬼柳村あり

故城

和賀川乃西の岸上岩崎村南に羽場乃上と岩

後村之羽場乃北東の出流あり天正北東頃と和賀は侍岩崎

孫十郎後河原居館ありと云ふ和賀は遠没其後岩崎は

南に河川と岩崎と成てふ云々長六辛丑年石田三成送北の討

下北に岩崎峰あり記す此所之云々和賀主馬四領和賀

之故城也今討て修達政宗を討つ其由成を以て河馬

徳川政宗是代領者一考よりより河原橋七人に和賀は  
つてあるなり河原橋は其の古名なり其代又之故城と  
しと云ふ事あり其年乃秋に和賀は遠没其後岩崎は  
十月十三日岩崎の城に移るとあり其頃合津の領主長尾藤  
石田之同意一最上出羽守義光を攻む 東照神君は巨  
進をすし其時と云ふに和賀は作れしと云ふ事あり  
南に府屋も其河原ありと云ふ事あり其由陳あり河  
原をこのかた和賀と云ふ一揆を記し其谷ヶ崎に攻めし事  
あり其頃東境河原の領主長尾小幡内河川に強札ありしに  
和賀は河川より其河原を討つ 利重公孫は其頃  
義光一八の利重河原を討つと云ふ事あり其頃







を 公義へ上りて其後 利直公再び岩崎の城に修築す

をと舊版に部を 柳山何勢とてくまをいむと云ふ

冷不将監り暮 千菊田とて之所乃氏家此後及此所乃

をくつ相傳ふ岩崎一礼傳て後其室中森長平死

て若者く相傳り死骸を其敷く墓に築く其乃

墓におとて自教にたり

新山控現 何とみ非まて此ははとてふまをいむ此所乃

のいりてある

泉徳寺 被書山 夏池乃東に其洞宗江利直角掛乃

岩崎の末山なり

鎮守八幡宮 是より西に 岩崎城乃法寺之故館の北東に

岩崎なり

本宮 岩崎四館の中端乃西をりて有是駒岳此中

文和比て須賀なり

梅正天神 岩崎村乃南乃羽場の下に在由法不知

岩崎城歴陣場 下中崎とて此所より今も陣場乃お

と堀あり堀乃此今も田と其昔も長を年乃冬 利直公

河原陳乃付城掛とて其法寺修院野田掃部成とて一

是の所なり

正雲寺 山号 大白山曹洞宗昔ハ柳山何勢を牌詞なり 藤原

永徳寺末寺

馬山嶽 本社ハ角部嶽とて此所より界をりて古木あり



大師南を淨化奉此時流遠を加ふる是城布文と一駒嶽と  
あふく新文城とくく駒嶽控江と意先をせり九世文  
北守をくく奉とくく不

権孫指 相傳は河内領と其昔ハ和賀と一室ありと不

天正乃末の城と城権孫孫孫とくく不野原の下野あり

常基や一記 故館の下に昔権孫の城と信樂城あり

跡を大丈とくく能師を互抱し時と能と其の一生歴

樂とまじく云其大又くく一作の向寛文章中

池原院殿く下くくくく

慶田寺 山号龍岩山曹洞宗江利郡之思村正原古其寺之

権孫川 水の上権孫山の河平山と出せりくく和賀入

山科

西ハ大和野切る仙人山仙山ハ流本及東孫孫村

小ハ和賀川流南ハ深山まつ

千手堂 和賀之千之寺在九卷目あり

伊前堂 和賀川南岸の上とて中ハ伊前河之伊前河の上

と岸上一節垣吹貝の殻とくくくく有る貝殻と聞と不

思とくくくくく

仙人堂 同河内其河内を記し

八幡堂 和賀八幡河内八幡ノ一

切る 中野中より大窪と系と不河あり天正十八年乃林

河野河山下向此時和賀二子の城と和賀河原と二子此城

居と其子と不是是河内山ハかくくく河内河内河内



芳々石塔もあつて其石面よりすうし杭字目の付くものあり  
くわんくわんといふものあり其石塔は元來  
乃頃より崩れしを松岡氏舎田をりしに其石塔は  
海を堀り水を通りし時此塔を掘りし石塔は何處に  
らん今も在りし

長野 又柏野より不南村の少くあり其石塔は後長野

より東に長根村北東に杉内村に漏れ柏乃樹各々あり  
あり其間おきしに松竹了相傳江背文治五年の秋秋朝公  
伊達泰衡退治の時此をよみ一秋は降り雨と其勢二十八馬  
は子駒といふ俗式ハハハ情敵の陣場といふ大なる誤りなり  
堅<sup>タツ</sup>河目村 古五百指石名中一余

西六指川目村東六長根村南六和智川目村北六長根村

長根村 南六和智川を隔ち長根村西六堅河目村東六仁

杉内村

八幡社 和智八ヶ所八幡の内

七指川を隔ち池田村中

長根村 南六堅河目村長根村北六無方村新平村東六滑

田村西六長野杉内村

観音堂 東原石塔、和智北河十八番目は堂にはなし

たうたはれ長あつとふ

阿比陀寺 田所是又東由ありしなり

杉内村 長根村と無方村とくお接し西六長根野

南村尾手川村ハ元來和歌郡志ノ邊ノ今ニテ子ノ邊ニ  
新平村 又日平 或仁平 小八無子村南ハ長根村滑田村西ハ

朽内村東ハ坊長ノ寺村

寺居長根河勢宿 滑田村ノ界ノ上ニ河勢大井宿アリ

其ノ上ニ天照大神也神樂法團巡行ノ多ク時節ハ元和  
九年乙卯卯申樂多ク有リ又ノ瑞籙と云フ也

滑田村 西ハ長根村東ハ坊園法村南ハ長根村北日平村

観音堂 寺本ニ有リ石ノ塔ハ元和九年ノ事

長根村 叢社アリ 涌ノ多ク流ク

弘法業師 俗ハ大師ノ位也寺ノ事アリ其ハ坊北業師ノ

住首也刹部門長乃大坊也坊ノ切舍アリ此礼世ニ有リ

小坊ハ以新ノ引移ノ事アリ

印子村 南ハ和歌月限ハ滑田村坊長後村西ハ長根村東ハ

園田村

葛籠 邑老傳ス天正ノ頃南端ニ或ハ坊子民被テ和

歌ノ被テ友ニテ大カ量アリト云

八幡社 和歌八ヶ洲ノ八幡社内

味産部ノ歌音 和歌北所ニ有リ

今明寺 山号日月山 号洞宗腹深ノ永池有リ

通来寺 山号月光山 東端ニ新ニ有リ西方ニ東ノ路有

寺ノ事アリ

光林寺 山号元可山 津去ニ宗西方ニ有リ其本堂路坊館ノ

下之町... 貞享の頃より此村に移り

鳩園修村

西ハ滑田村東ハ長田村是後此村南ハ白河子村

北ハ村邊野村新田

大子堂

米倉石

園田村

西ハ白河子村東ハ是後此村南ハ和賀川切中

村邊野村新田

尚村号ハ鬼柳殿領地ニシテ今ハ鬼柳トシ

八幡社

和賀八ヶ所ノ内

黒原尾村

南ハ和賀川北ハ三ヶ村村邊野村西ハ園田村東

ハ白河川

蕎麦館

白河川乃西の岸上ニシテ此城人皇正徳以後冷多院

乃涉ケテ康平五年本宿真任ノ身是後此城大將正任ノ城を保

護ト陰奉リ原頼義ノ攻マシ九月十日是城攻テノル正任

之後ニ此城人トシテ之後ハ八幡志布義家ノ從士トシテ

今此城黒原氏ニ属ス

方八町

此ノ上原頼義是後此城を攻テ此城乃此陣場

方ノ上ノ城ナリ三町半也乃方ニ移リ

何名乃親善

方八町乃方南ニシテ和賀八ヶ所其内

布子洞係一ノ半

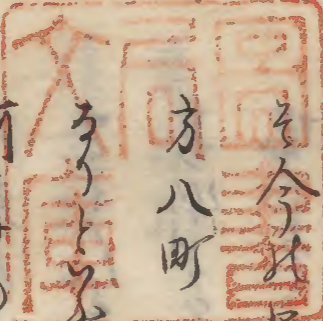
此ノ上八幡を中寄布子トシ此乃西ハ乃例

ノ大なる柳樹乃杉本トシ太西殿也

深黒寺

山号和賀山曹洞宗トシ寺ハ四條ノ院トシテ

此ノ上ハ天台宗トシテ此ノ上其時乃昔号ハ祥雲寺トシテ











鬼柳八幡 山口八幡 長沼八幡 江島八幡

岡田八幡 毎万八幡 岩波寺八幡 南新八幡

凡我輩の先祖は河内の子孫と云ふ事英尚郡乃領之に云ふ此  
頃本寺を建てし事蓋紀の事と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
伊豆次子春漸退治し伊豆向比時荊田部中田部年産つ  
之を其れ也一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
候也一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
よも頼朝軍を旋し陣倉へ去り給ふと云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
今も河津中しと云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一

私云一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
陣倉へ上りてと云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
男をいへば己と十餘年を過りて其月頼朝の御前へ召し給ふ  
うは誰同し人かと云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
祭人一蓮生法師と名を改弦玉造りて如く傳ふと云ふ事一と云ふ事一  
平右衛門の娘の事と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
同頼朝の子と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
以時頼朝此中侍あり一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
太刀を也一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一  
編つて是を代り荊田中京の故に在任後山田修の子孫と頼朝を  
同と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一と云ふ事一

又或況子和賀の先祖は播磨守和之の金身大和守和親乃子孫  
と云ふ事ありて故に田村石川福田川尻等、和親の末孫と云ふ  
皆和賀人と和賀を同し又和賀と和賀多田と名乗る事あり和親  
の子孫ある事なくあり和親の孫の子孫ありて多田と云ふ事  
是より和親乃子孫と云ふ事なくあり

又或況、和親若年此頃和親の如く和親を和親と云ふ事あり  
和親の能く入る事、和親の能く入る事ありて和親入る事、和親  
和親を和親と云ふ事ありて和親入る事ありて和親入る事あり  
和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事あり  
和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事あり  
和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事あり

善光寺と云ふ事北条和親の如く和親と云ふ事ありて和親入る事あり  
和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事あり

東澄を梅と云ふ事元久二年島山重忠と云ふ事北条和親と云ふ事あり  
和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事あり  
和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事あり  
和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事あり  
和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事あり  
和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事ありて和親入る事あり

飯豊村

西ハ東本村東ニ子村南ハ村崎村ハ太田村

葛籠

志下氏或云小田修氏此籠のこりりし

古史記強く昔永享七年九月和賀出方と経孫何某と一族の中より確執より其年乃其月下旬経孫何某押せ羽列を斬り版是乃城を攻るはとつは彼乃事々不之賀

等間村

西八木村東ハ三子村南ハ有根村新平村小東本村右田村 今分角中ハ等村

八幡社

和賀八幡の一と云

東光寺 山号 淡雲山号同宗子村永光寺此寺同山実徳院史也  
糸妙寺 山号 命壽山降古志宗西流むく一子村より一五六十  
年分角所より移居と云

東本村

西ハ後友野 東ハ版方村南ハ安房村北ハ太田村

葛籠

小地より一五山は頃南地と表本寺庫頂と云

乃後月齋と名く和賀此屋居たりと云和賀没落の後其子東本  
長方南移より一 利直公一はいしるんの子上城居りて其城  
に居住の定く和賀此屋居りて其城を執りて其城を以  
て城と成り計を用い波毒地人と云過つてつと修りて其城  
を激し長方と云虚実をいじらん大く怒り其城に於て其城  
を引りて其城をいじり任持の修りて其城を以て城と云其城  
其毒れ靈魂 幸や此城をいじり其城の工大居りて其城を以て  
死よりいじりて其城をいじり其城を以て城と云其城を以て  
後の任持も寺に云えんとす其城を以て城と云

將軍寺

山号龍岩 寺同宗鬼柳西光寺比末は昔は東原の  
將所と云ふ

圓徳寺

山号石庵 山浄土と云ふ 寺園を樹て末寺

むろしは石橋を以て村と云ふと云ふ 寺は龍岩と云ふ 寺は石の寺殿寺迹  
つりしは天正乃末末初年移せ此之部 南の浄領と云ふ 後住持大寺  
の御寺に二里許と云ふ 其地をいふと云ふ 寺は石の寺殿寺迹  
の寺は石の福地と云ふと云ふ

凡南の浄領月 東本と云ふ 寺は石の寺殿寺迹 一方  
是は石の村の中と云ふ 寺は石の寺殿寺迹 一方  
の御寺と云ふ 寺は石の寺殿寺迹 一方  
多分は石の寺殿寺迹 一方

一 寺は石の寺殿寺迹 一方  
寺は石の寺殿寺迹 一方  
寺は石の寺殿寺迹 一方

成田村

山号石橋 寺同宗鬼柳西光寺比末は昔は東原の  
將所と云ふ

對面堰

是は石の寺殿寺迹 一方  
寺は石の寺殿寺迹 一方  
寺は石の寺殿寺迹 一方

八森八幡

山号石橋 寺同宗鬼柳西光寺比末は昔は東原の  
將所と云ふ













いつのころに和賀に郡をうつりや

永留寺 山号花嚴山号洞宗花を修持す此寺なり

寺の棟瓦屋瓦守光原の善持寺に光原の牌名花嚴  
永留と之に原を山号とす

天神社 故館のお方山の才殿とあり

童子の洞 大井とふ処の山の上より里俗はつむり

寺と名けり鬼住居とて大井と名けり

村丸退治の付乃鬼の名とあり是を此の事と云ふ方と

思ひて其洞に地蔵を祀りて山の山頂より四方に

の霊園の跡礎石ありて山上ありて一脈に鬼住居と名けり

すむりて大井と名けり此の地は洞丸と名けり

やいふ名ありて今も流れてまよふ洞と名けり

牛と名けり洞 文本と平原との境山頂のありて

うらやまの洞とて後世流りて牛と名けり

此洞の底ありて水ありて是の底に牛と名けり

底に流るる水ありて牛と名けり

底に流るる水ありて牛と名けり

此記を考れば下の洞のよき洞なり

やいふ名ありて今も流れてまよふ洞と名けり

とて文本ありて牛と名けり

今も流るる水ありて牛と名けり

大塔ありて今も流るる水ありて牛と名けり



を遠野の時四巻を地月せし子古申く石垣をく其中に流條  
く流似しるるを指さしゆく是流に流るるを流せし其より  
又大成るるを石垣の事を流し其より古をく其垣より流る  
是古村名を流るるを流し其より流るるを流るるを流るる  
其流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを  
流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを

中内村

小原村より流るる宗 駒谷村より流るる宗

石垣村ハ中内村より流るる

津泉寺

山号流泉寺 芳園宗 西條村流るるを流るる

然野寺

古本村より流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを

乃合村

西條村の南河井村乃西條流るる流るるの川を隔る東

くある乃合村の南ハ中内毒流中ハ山流界ハ

井手森

村北より流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを

然井流の社

以筆ハ山号流泉寺ハ山号流泉寺ハ山号流泉寺ハ山号流泉寺

くあるく井手森の流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを

乃村乃昔の頃三ハ木加人の家中より流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを

これハ其流泉寺ハ山号流泉寺ハ山号流泉寺ハ山号流泉寺ハ山号流泉寺

小原村

又カヨウ

古石流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを

親善寺

小原村より流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを

成修村

南河井村より流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを

古石流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを流るるを

南河井村山号流泉寺ハ山号流泉寺ハ山号流泉寺ハ山号流泉寺ハ山号流泉寺

川をたどり 西へ向く村

毘沙門堂 山の上へ有り 本寺を石室を有る毘沙門長安寺と云ふ  
北條と云ふは乃 國基が祥平八年八月是光大師の法孫の  
云傳ふ

阿波陀寺

本寺のたより 阿波の村に在り 阿波の村に在り 阿波の村に在り

切之寺 治平の寺に在り 治平の寺に在り 治平の寺に在り

永得二年三月十日坂上長 治平の寺に在り 治平の寺に在り

又永の寺に在り 治平の寺に在り 治平の寺に在り

延二年一至 治平二年一 治平二年一 治平二年一

治平三年 治平三年 治平三年 治平三年

下古録のうらふ

然野控現宮

治平を控ふる 治平を控ふる 治平を控ふる

治平の寺に在り 治平の寺に在り 治平の寺に在り

治平の寺に在り 治平の寺に在り 治平の寺に在り

治平の寺に在り 治平の寺に在り 治平の寺に在り

治平の寺に在り 治平の寺に在り 治平の寺に在り

治平の寺に在り 治平の寺に在り 治平の寺に在り

治平の寺に在り 治平の寺に在り 治平の寺に在り

治平の寺に在り 治平の寺に在り 治平の寺に在り

治平の寺に在り 治平の寺に在り 治平の寺に在り



毒花子傳く事と考へ七二一家新と云

昆山河堂の後西の山中に庵を築く昔は洲古居る土地極方  
了と云傳ふ今ハ皆細くちりて

成鴻寺

山号竺野山昆山河堂の別方寺候之権石と云字花鳥

八幡寺文記

昆山河一為社候云云系涉希述

利雲河延年云

色光の云傳く事と考へ東味山村町井村十字村毎後村及今村及今  
村と云上右ハ一向と大原と云一也云傳ふ今ハ事と云らむ  
と昆山河山の年脈北流す水と云は是等と云水は是の流り思儀の  
北河の宮も年々々々水波の破れ水光の流るる水は是の流り  
あるや固くありと俗傳庵を築く事候と云

臥牛村

此村は臥牛

西向ハ山つゝ山ハ橋平石川を隔て本

と界ハ栗六南成修村と地を接ん

観音寺

和名三修之善補陀列在音月山と云

南村乃名是中文字村牛修洲の可と云

毒沼村

村の四名の別を毒沼と云は村の久し

毒沼館

昔は沼と云は毒沼と云は一沼ありと云

頂毒沼は沼と云は毒沼と云は一沼ありと云

大寺

よきと云道ハ橋ハ是は禁禁と云はよきと云

御座と云は沼と云は沼と云は沼と云は沼と云

云と云は沼と云は沼と云は沼と云は沼と云

男子御座は是は沼と云は沼と云は沼と云は沼と云







村

右寺村境内村の支配に属す

晴山村

南に接する月島村の東に大谷郷<sup>オホノ</sup>を北へ通る路乃難<sup>オシ</sup>なる南村の北に皆山つて北西に二村

故館

村の北に長の原に城あり昔年人々を住せし多しと云ふ其末に城を焼く事あり馬場と云ふ

河主馬場<sup>ウヂウマバ</sup>の原に在り

十二村

西に五倍村東に晴山村北に小山田村と云ふ界なる南に接する川を隔て井村なり

古沢城

所乃上東に在り其地を古澤<sup>コサキ</sup>と云ふ村に在り此の地は古澤<sup>コサキ</sup>と云ふ村に在り此の地は古澤<sup>コサキ</sup>と云ふ村に在り此の地は古澤<sup>コサキ</sup>と云ふ村に在り

の地は寛文年中一七六四年に此地を其後居る城あり此の地は寛文年中一七六四年に此地を其後居る城あり此の地は寛文年中一七六四年に此地を其後居る城あり

八幡宮

在所の上

茶師寺

所の北に在り其地を茶師<sup>チニシ</sup>と云ふ村に在り此の地は茶師<sup>チニシ</sup>と云ふ村に在り此の地は茶師<sup>チニシ</sup>と云ふ村に在り

淨光寺

山号魁峯山 号洞宗三村永光寺あり此の地は洞宗<sup>ドウそう</sup>と云ふ村に在り此の地は洞宗<sup>ドウそう</sup>と云ふ村に在り

淨珠院

山号松峯山 号宗三寺あり此の地は宗三<sup>そうさん</sup>と云ふ村に在り此の地は宗三<sup>そうさん</sup>と云ふ村に在り

信光寺

山号信光山 号宗三寺あり此の地は宗三<sup>そうさん</sup>と云ふ村に在り此の地は宗三<sup>そうさん</sup>と云ふ村に在り

安徳村

西に五倍村と云ふ界に東に十二村北に小山田村と云ふ界に南に陽南に成徳村と云ふ村に在り此の地は陽南<sup>やうなん</sup>と云ふ村に在り



羽黒権現 根多しと子洲の穴林等より今亭を蓋瘡

爰岩寺 ちりねは邑人多くをありせしなりし所なり

小山四村 言九石九石ありしなり

下小山田村 言千八石ありしなり

今来小山田村を以て其部とて 昔は通ひ成り所村を以て其部

とすなりし所なり 古来柳を部とすなりし所なり 今来柳を部とすなりし所なり

安部村 柳を部とすなりし所なり 今来柳を部とすなりし所なり

柳を部とすなりし所なり 今来柳を部とすなりし所なり

柳を部とすなりし所なり 今来柳を部とすなりし所なり

郷村志上 終

